

1-I プロポリスの活性酸素消去作用と臨床効果 I (基礎) II (臨床)

I ○ 松繁 克道 (東京健康科学専門学校、元富山医科薬科大学和漢薬研究所)
門田 重利 (富山医科薬科大学和漢薬研究所化学応用部門)

II ○ 城後 昭彦 (城後外科)

I (目的)

プロポリス (Propolis) はミツバチの採集・生産物であり、主として樹木の蕾や樹皮から採集された物質とミツバチの分泌物が混合された暗褐色ワックス状の粘性物質である。民間薬としての利用は古代エジプト時代に溯るといわれる。プロポリスの伝承療法はヨーロッパにおいて今日尚広く行われ外用、内用の医薬品が数多く販売されている。確認された薬理作用の主なものは、「抗菌作用」「抗ウイルス作用」「消炎・鎮痛作用」「肝保護作用」「抗酸化作用」「抗糖尿病作用」「抗腫瘍作用」等である。植物基源の異なるプロポリスを用いた各国の報告には、多くの共通する生物活性が見られる。その中から生体の恒常性や各種疾患の発症に深く関与している「抗酸化作用」に着目し研究を進めることにした。

(方法)

- ①ブラジル産プロポリスの活性酸素消去作用の有無の確認。
- ②糖尿病に用いられているプロポリスの抗糖尿病効果をフリーラジカルが関与する糖尿病動物実験モデルを使用してその効果を評価。
- ③プロポリスの肝臓保護効果をフリーラジカルが関与する肝障害動物実験モデルを使用して効果を評価
- ④プロポリスの肝保護作用の作用機序を類推する目的でフリーラジカル消去作用を指標に既知の肝保護剤との比較を行った。
- ⑤プロポリスの抗腫瘍作用を26-L5およびHT-1080を用いて評価。

[成績]

- ①～⑤に顕著な生物活性を認めた。
- II. 12年に亙るプロポリスの臨床成績を報告する各種ガンに顕著な有効例があった。